

教育長室だより

第 27 号

2021.8.4

灼熱の日本列島です。新型コロナ感染症も新しい型のウィルスによる感染拡大が大きな第5波を生んでいます。大変な日々は続きますが、わたしたちは子どもたちとともに安全で有意義な時間を過ごせるよう社会全体で協力しながらがんばっていかなくてはなりません。



東京オリンピックの真っ最中です。連日の放送やニュースで選手たちの奮闘する姿が届けられています。

オリンピックについては開催の可否を巡って様々な議論がありました。開催反対の声が国民の間にあることを理解しているという選手のコメントを聞いたり、厳しい行動制限の様子を見たりすると、心が痛みます。もっと心置きなく競技に向かわせてあげられる方法はなかったのかとも思います。

それにしても一つ一つの競技には選手を巡る“ものがたり”があり、それが競技の内容に重なって感動が増幅されます。実にスポーツというものは、“人が必死でがんばる姿”を純粋な形で見せてくれるので、素直に感動させてくれます。



さて、町内の学校では個人用のタブレットの配備が完了しました。すでに小学校では活用が始まっており、同時に行っているトイレの乾式化・洋式化工事の影響で一部使える時期がやや遅れるところがありますが、おおむね2学期から本格活用が始まります。並行してタブレットの活用をより効果的にするための投影型デジタル黒板の配備も年次的に進めています。。



ここで立ち止まって考えたいことがあります。タブレットをはじめ学習環境のICT化はそもそも何を目的にしたものなのかということです。これからの時代に使うことが必須となるIT機器に適応できる人材を育てるというのも一つの目的です。そして何より、学習を深め、効率化し、そしてプログラミングなどを通して自分で考える力を身につけることが重要だとされています。



これからの先行き不透明な時代を生きる子どもたちに“自分で考える力”を身につけさせるために学校での学習内容や方法で、どんなことがより重要になるのでしょうか。そういう力を身に付けるためにICTをどのように活かし、また、これまでの続けてきた学習内容・方法のどの部分を大切に受け継ぐべきなのでしょう。様々な見解がありますが、これらの基本的な議論が十分に尽くされ、結論らしきものが明示されていないようにも思います。

○

子どもを取り巻くわたしたち大人は、新しい時代に適応できる教育を進めながら、一方で、長い時代を経て獲得してきた子ども理解や教育の方法についての大切な基本をあらためて確かめ、共有していくことも重要だと感じます。時代の変化は次第に加速しているようですが、子どもというものが本質的に急変するはずはありません。過去の研究で大切にされてきた学習方法や指導方法などの価値が一気に無くなるということではないと思います。“変革と継承”の両面を追求することが求められています。

○

子どもたちは不思議なほどICTに強いところがあります。きちんと理解していなくても感覚でパソコンやタブレットを操ることができます。相性がいいということでしょうか。ですから学習にパソコンやタブレットを使うことを大変好みます。学習へのモチベーションを上げる一つの要素になります。指導する側にとっては大きなプラス要素です。ですからこの高いモチベーションを利用して、多くの子どもが苦手としがちな学習内容にも進んで取り組ませることができると考えられます。学習に取りかかる際の抵抗感が低くなるということです。

○

このICTと子どもとの相性の良さを家庭学習に活かそうという声があります。また、昨年度の全国一斉休校の経験から、オンライン授業への指向も高まっています。

つまり、タブレットを家庭に持ち帰って学習に使うということです。これは確かに意義ある効果的な活用だと思います。しかし、これを実現するにはいくつかのハードルがあります。

○

タブレットは教室に設置した充電ボックスで充電しますが、持ち帰った際には一定時間で電池切れとなり、家庭には充電器具がありません。また、家庭にネットワークが整備されていない場合はWiFiの装置を持ち込む必要が生じます。

そして一番大きな問題は、タブレットは学習以外のインターネットサイトへもつながるので危険なサイトへアクセスできるということです。

もちろん正しい使い方については指導を徹底することとなりますが、意図せずに誤った使い方をしてしまう可能性もあるということです。

○

このようなさまざまな課題をクリアできれば、子どもが自分の考えで意欲的にしかも正しくICTを駆使しながら学習や研究をする環境に近づきます。

その方向で環境整備を検討していきたいと思いますが、一足飛びには難しいところです。

様々な立場の方の知恵を結集して新しい学び方を模索していこうと思っています。